



# あなたは何系？ 男子分類学

現代社会に生息する男子達は、実に個性的なタイプばかり。  
今回は、そんなイマドキの男子をズバッと分類ちゃいます！

## 男子分類① ガテン系男子

【がてんけいだんし】

リクルート社の発行する現業系・技能系職種専門の求人情報誌「ガテン」より派生した造語。ガテンとは「合点がいく」→「がってんだ！」という言葉に由来し、その元々の意味合いとしては、土木・建築・メカニック・調理師などの技術職や技能職に従事している人を指していたが、それが転じて、男らしく強そうで頼りがいのある男子の総称として使われるようになったと推測される。

特に若くしてママになりたいと夢見る若いギャル達の間では、その生活力の高さも魅力となり、近年非常に人気が高いと言われる。

## 男子分類② 草食系男子

【そうしょくけいだんし】

コラムニストの深沢真紀が日経ビジネスオンラインの「U35男子マーケティング図鑑」の中で「草食男子」として表現した造語。異性や恋愛に対して、それほど積極性をもたないことが特徴で、その後、ライターの森岡正博やマーケティング研究家の牛窪恵などが「草食系男子」と表現するにしたがい、広く一般的に広まったと考えられる。対義語としては、「肉食系男子」という造語がある。

その心の優しさが評価されるにつれ、従来の男らしさよりも、穏やかな雰囲気をもつ草食系男子にひかれる女子達も増えつつある。

## 男子分類③ 仙人系男子

【せんになんけいだんし】

上記に説明した草食系男子より、さらに分化・派生した造語。恋愛への関心・興味が低いのは草食系男子と一緒だが、さらに、世の婚活ムードに振り回されることなく、常に平常心・マイペースを保つことのできる男子を指す。恋愛の土俵にあえて上がらず、事の成り行きを遠巻きに観戦するという行動パター

ンがよくあげられる。

ある意味においては、一切の世俗より解脱し達観した、まさに現代に降臨した仙人のような男子であるとも言える。

## 男子分類④ スピリチュアル男子

【すびりちゅあるだんし】

「自分の個性」や「自分の内面世界」について考え、自分探しや自分磨きに精をだす男子を指す造語。毎朝の占い番組をチェックしたり、気にしてしまうのがひとつの特徴とも言える。過去に放送されスピリチュアルブームの先駆けとなった人気番組「オーラの泉」に感銘を受けている場合が多いとか。

スピリチュアル男子が出現した背景のひとつとして、「一人っ子」「核家族」が増えた現代社会において、より各個人のパーソナリティを重視した「個性教育」からの影響もささやかれている。

## 男子分類⑤ 素面男子

【しらふだんし】

酒席に参加しなかったり、参加しても酒をあまり飲まない男子を指す造語。たばこ、コーヒー、ギャンブルなどの嗜好にあまり興味がなく、フリスクやガム、アロマテラピーやスイーツなどがその代わりとなる。酒席を得意としない代わりに、散歩やおしゃべりなどのコミュニケーション能力に長けている場合が多いとの情報もある。

その言わば癒やしを求める独自のスタンスが、同じく癒やしを求める現代社会の疲れた女子達に、「堅苦しくなく、自分らしく、ありのままの自然体で付き合える」と、高評価を得ている様子。

## 男子分類⑥ リスペクト男子

【りすべくとだんし】

何かをリスペクト（尊敬）することを信条とする男子を指す造語。友達や家族を大事にして尊敬し、また自分を育んだ地元への思いが強いのが特徴。地域イベントやボランティア活動などにも積極的に参加する、「地域愛・地元尊敬」の精神を心に秘めるその姿勢は、地元の発展に大いに貢献している。バブル経済崩壊後、若者が都会に出ずに地元に残るケースが増えたこともあり、上記の傾向が顕著に現れるようになったと推測される。

過去に放送された人気テレビドラマ「池袋ウエストゲートパーク」や「木更津キャッツアイ」にもリスペクト男子の要素が見られ、その熱い地元愛精神が、同じく地元志向の女子達の間で人気があるらしい。

## 男子分類⑦ 弁当男子

【べんとうだんし】

自分で弁当を作って会社を持って行く独身男子を指す造語。「東京ウォーカー（web版）」で記事として初めて取り上げられて以降、新聞やテレビ番組などで、改めてその存在が取り上げられるようになった。弁当を自作する独身男子が増えた要因に、節約志向、メタボ対策などの健康志向、エコ対策などがあげられ、そして何よりも、男子の料理が一般的になったことなどが弁当男子の急増に拍車をかけたと推測される。さらにここから分化・派生した、会社に水筒を持参する「水筒男子」という造語もある。

料理のできる男子全般は、女子から見た一つの家庭の理想像であるとも言え、夫婦共働きが当たり前となった近年において、「弁当男子」は女子にとって結婚相手に求めるひとつの要素になりつつあるとも言える。